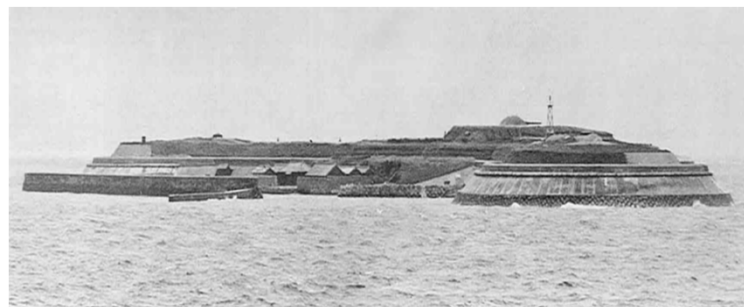
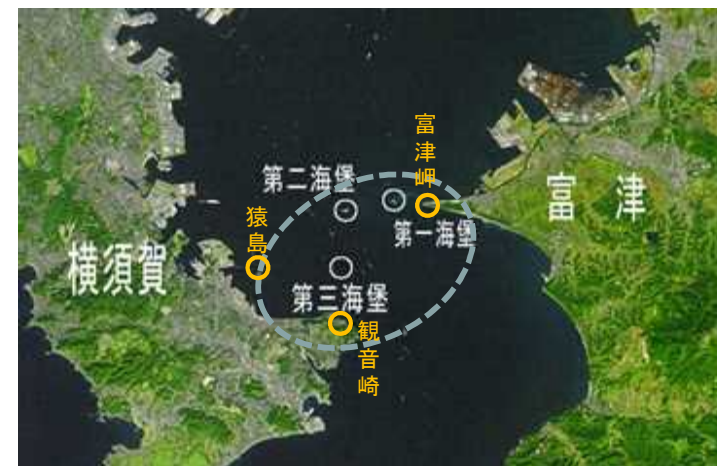


第二海堡の歴史

- 第二海堡は東京湾のほぼ中央、富津岬沖合にある人工島。明治時代に第一海堡、第三海堡とともに首都防衛のための海上要塞として建設された、日本で3つしかない海堡の一つ。 ※海堡(かいほう)・・・砲台を設置するために作られた人工島
- 明治13年、陸軍省は明治時代最初の砲台建設工事として、観音崎第一砲台と第二砲台の建設に着手。
その後、東京湾口部に、首都東京と横須賀軍港を護るため24の砲台が造られる。(これらの砲台群は「東京湾要塞」といわれている。)
- 第一、二、三海堡は、東京湾要塞の中でも観音崎～富津岬～猿島の防御線をより強固にして、敵艦の東京湾進入を阻止する目的で海中に築造された。
- 第二海堡は約49万 m^3 の石材、約30万 m^3 の砂を使用し、埋立造成費だけで約79万円(現在の価格で約37億円)を要した。

【第二海堡の変遷】

- ・明治22年 第二海堡 建設着手
- ・大正 3年 第二海堡 完成
- ・大正12年 関東大震災により被災、周囲の護岸が崩壊
- ・昭和20年 敗戦により米軍に接收される
- ・昭和30年 米軍から日本へ返還
- ・平成17年 安全上の理由(浸食が進行)により立ち入り禁止
- ・平成19年 航路保全のため、護岸の改修工事に着手
- ・平成31年 インフラツーリズムの推進のため上陸ツアーが開始



明治40年に撮影された第二海堡(米国公文書館(NARA)蔵)
浄法寺朝美:日本築城史、原書房



平成16年3月 撮影



平成30年6月 撮影

第二海堡の観光資源としての活用

- 東京湾の中央に位置する「第二海堡」は、第二次世界大戦後から現在に至るまで、ほとんど人が立ち寄る事はなかった。
- しかし、今日、第二海堡の非日常的シーンが注目されており、平成30年1月に開催された政府の「観光戦略実行推進タスクフォース(第17回)」において、民間事業者より「今後公開を希望する施設」として提案されたことを受け、平成31年より、観光資源の一般開放として上陸ツーリズムを開始している。

平成31年度本格ツアー開始

●第二海堡は、千葉県の埋蔵文化財包蔵地として指定を受けており、カノン砲台跡や地下壕(レンガ遺構)などの戦争遺跡が残存している。



●ツアーでは**歴史的知識・ホスピタリティ等多くの**研修を経た専属のガイドが解説を行う。



ツアー満足度向上の取り組み

【取り組み①】

- 第二海堡上陸ツアーの新たな拠点として、令和2年7月15日に「三笠ターミナル」がオープン。
三笠ターミナル2階の一面に第二海堡の紹介ブースを設置し、第二海堡の歴史や魅力を多くの方々に知っていただき、上陸ツーリズムをさらに推進するため、建設当時の模型や仮想現実(VR)、歴史や現存する遺構を紹介する映像やパンフレットなどを用意。

三笠ターミナル2F(第二海堡紹介ブース)



●東京湾海堡ツーリズム機構Webサイト(第二海堡スポット、ツアー検索など)

<https://daini-kaiho.jp/kaiho/jp/>

●第二海堡ツーリズムWebサイト(第二海堡の概要や歴史など)

<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/wankou/tourism/index.htm>

【取り組み②】

- 見学用スロープを整備し、新しいツアールートを整備。
- 第二海堡に残存する遺構を復元し、新たな観光スポットを整備。
- 現地においてスマートフォンをかざすと昔の写真を見ることができる拡張現実(AR)を整備。

第二海堡の見どころ

○ 第二海堡は西洋から取り入れた材料により築造されているが、お雇い外国人ではなく、日本人の手で設計、施工がなされた。コンクリートが貴重な時代のため、様々な場所（砲台基礎、掩蔽壕（えんぺいごう）、倉庫、地下通路など）で煉瓦を使うなどの工夫がみられる。また、間地石（けんちいし）護岸は日本城塞築造技術の海洋への応用である。

第二海堡に現存する資源

SINCE1889

残存する要塞 第二海堡の遺構

第二海堡は、当時の面影を今に伝える遺構や開放的な景観など、貴重な資源を有しています。ただし、場所によって立ち入りできないところがあります。



右翼北側の掩蔽壕の内部です。アーチ形の入口は地下通路で27cm加農砲に繋がり、天井はコンクリート、横壁は煉瓦構造物となっています。

煉瓦構造物
(右翼北側掩蔽壕)



北側海域の防波堤です。東側は延長160m、西側は延長80mですが、西側部分は沈下が進み海没状態です。

防波堤



北側の繋船場です。係船柱が残存し、石垣の勾配も急なことから当時の繋船場であると考えられています。

繋船場



右翼北側の掩蔽壕の外観です。イギリス積み風の横壁が11.4m続き、煉瓦は高温で焼いた耐水効果の高いものが使われています。

煉瓦構造物
(右翼北側掩蔽壕)



北側の繋船場に隣接する倉庫です。壁は煉瓦、天井はコンクリート。繋船場に近い場所に位置し、防水施工もされており、燃料を保管した倉庫であると考えられています。

北側着船場前倉庫

煉瓦構造物
(右翼西端掩蔽壕)



日清戦争時、海軍が右翼に水雷衝所や海軍砲を設置しましたが、日清戦争終結後これらは撤去されました。その後第二海堡の基礎工事は続行され、この西端に15cm加農砲が配備されました。

第二海堡からは桜花堂煉瓦の他にいくつかの刻印が収集されています。



煉瓦刻印

砲台跡・灯台



15cm加農砲の砲台跡で、無筋コンクリートの巻き立てが行われています。現在、この場所に第二海堡灯台（高さ12m）が設置されています。

間知石



間知石が積まれた南側の護岸です。伝統的な築城技術によるもので、関東大震災でも崩壊しなかった堅固な構造となっています。

第二海堡付近を行き交う船



第二海堡は浦賀水道航路および中ノ瀬航路に近接しており、大型のコンテナ船やタンカー、豪華客船などを間近に見ることができます。

煉瓦構造物
(中央部砲台地下部)

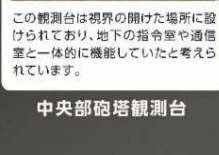


左翼側の地下要塞の入口です。



高角砲の砲座

12.7cm高角砲の砲座跡です。この高角砲は太平洋戦争時、昭和19年（1944）に設置されたものだと考えられています。



中央部砲塔観測台

この観測台は視界の開けた場所に設けられており、地下の指令室や通信室と一体的に機能していたと考えられています。

